

東京すくわくプログラム活動報告書①

〈テーマ設定の理由〉

マットや肋木、ハシゴ、巧技台等、色々な設定を組み合わせることで、子どもたちがどのようにイメージを持ち、からだを使って遊ぶのか。一人一人の体の動きや、イメージ、また友達同士で遊びがどのように広がっていくのかを見ていく。

普段の生活から踏ん張る力や足首の硬さがある子が多いので、自分の体をしっかり支えることや足指でしっかり地面を蹴ること、手を使うこと等も意識をしながら設定を組んでいく。体を育てることでイメージも広がっていくので子どもたちの姿や、対話も通して取り組んでいく。

園名：社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園
活動日時：令和7年7月4日
午前中
クラス名：ぞう組（5歳児クラス）

年間テーマ：設定遊び

〈活動スケジュール〉

室内ホールで設定遊びを行う。「何をしたい？」と聞くと「梯子!」「肋木!」と言っていたので梯子や肋木を使って設定を組み立てる。自由に好きな場所から遊び始め、そこから子ども達の様子を見て遊びを展開していく。

〈環境をデザインする・探究活動の実践〉

好きな場所から設定遊びを楽しむ。ホールを走る子がいるが、高い設定のところでは慎重に渡ったり、しっかり前を見る姿があった。慣れてくるとスムーズに渡ったり、梯子にぶら下がる子が増えていった。

肋木の急斜面を登っていく子は、足が滑りやすかったが何回も出来るまで挑戦していた。濡れた雑巾を置き、滑りにくいようにしたり、体技台を置いて自分の力で登れるようにしていった。ロールマットによじ登ることが難しかったり、両腕がしっかり伸びずに登る子が多かったので形を変えて体技台を増やし、しっかり体を両腕で支えて登れるようにしていった。その後、子どもたちはスムーズにしっかり両腕を伸ばし足裏をついて登るようになっていった。出来ることを自信にして繰り返し楽しんでいる姿が見られた。

子どもたちの様子を見て、細い道にフラフープを置いて低い姿勢を促したり、梯子を低くして障害物のようにして設定を変えながら楽しんで体づくりをしていった。子どもたちは、フラフープが倒れないように慎重に入っていたり、友達と当たらないゲームをして遊ぶ等自分たちで遊びを広げていく姿も見られた。

〈活動の為に準備したもの〉

- ・体技台 ・梯子 ・一本橋
- ・ロールマット ・マット
- ・布団棚 ・肋木 ・肋木板
- ・フラフープ ・縄



〈振り返り〉

- ・子どもたちにどんなことをしたいのかを聞きながら、設定を組んだ。こっちからこうしてみよう、難しいところは挑戦してみよう、と楽しんで体を動かす姿があった。大人がねらいを持った設定と子どもたちからの意見を組み合わせ意欲的に行えるようにしていった。
- ・高めの場所はしっかり手を使っていた。慣れてくると姿勢を変え、腹ばいで進んでいく等、楽しんでいた。設定を低くすると立位で落ちないように進んでいく。ペースが速くなり、走る子もいた。高低差を楽しみながら自分たちなりに「落ちないように」等ルールを決めて遊んでいた。
- ・腕を伸ばしてロールマットを登る事が難しい子は、体技台が高い方を選んで登っていた。できたことを自信にして繰り返し楽しむ姿が見られた。又、できた喜びを大人や友達と共有する姿が見られた。
- ・設定を変えたことで、より集中して楽しむ事が出来た。意欲的に取り組めるように子どもの姿から少し難しい設定を作り、挑戦して出来たことを自信に変えていけるようにする。